

6. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北陸)	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	衣料品専門店 (経営者)	販売量の動き	・昨年と比べ2～3月は断然悪く、4～5月はよい。勢いが全く違う。
		乗用車販売店 (経理担当)	販売量の動き	・5月の販売量は前年同月比で120%の見込みである。28年2月の販売量は前年同月比で60%であったので3か月前と比較して上向きである。
		住関連専門店 (役員)	販売量の動き	・大型連休中の来客数、販売点数、単価からみて、前年との比較でここ直近の数か月は下がっていない。
		観光型旅館(経営者)	単価の動き	・新幹線開業から1年が経過し、ゴールデンウィークの日並びが前年より悪く特定日が2日減っているが、インパウンドや募集团体の宿泊単価が前年より650円上がったため、来客数は300人減少したものの売上は若干上昇した。
		タクシー運転手	来客数の動き	・北陸新幹線開業2年目に入っても週末を中心に観光客は依然として多いが、平日は人出が少なくなってきている。
		通信会社(役員)	販売量の動き	・新年度に入り2か月が経過したが、契約獲得数は前年度末からの好調を維持している。スマートフォン販売の季節的な好調さを含め、販売数は堅調に推移している。
		美容室(経営者)	それ以外	・新たに導入した化粧品の売行きが良い。ただ来客数は依然として増えないままである。
		住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・問い合わせ、イベント来場ともに増えている。また、契約件数、契約金額はともに増えた。例年になく客の動きに勢いを感じた。
		住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・住宅展示場の来場者が増えている。
	変わらない	商店街(代表者)	お客様の様子	・暑くなるのが例年より早かったため夏物の動きが少し早かったが、ずっと続くとは考えにくい。
		商店街(代表者)	お客様の様子	・中心市街地再開発地区の営業開始が近く期待感があるが、人の流れや動向がはっきりつかめない。
		一般小売店[事務用品](店員)	販売量の動き	・連休中の売上は期待値より低かったが、大きなへこみにはならなかった。
		スーパー(店長)	販売量の動き	・買上点数は微増にはなっているものの、来客数がなかなか増えない。来店頻度が増えていない状況である。
		スーパー(総務担当)	販売量の動き	・競争が激化する中ではあるが、全体としての来客数、買上率に変動はなく、販売量も顕著な変動はない。
		コンビニ(経営者)	販売量の動き	・店舗の棚を従来より高くすることによって取扱商品を増やした。若干、単価は上がっているが、来客数は前年比で同数か下回る状況である。主食系の弁当や調理済食品が前年を下回る状況が続いており消費が回復している兆しはみられない。
		コンビニ(経営者)	販売量の動き	・前月よりは気温上昇による売上アップはみられるものの、季節変動の範囲内を超えていないので前年比で不調のままである。
		コンビニ(店舗管理)	お客様の様子	・今年に入り深夜帯の来客数の減少が続いている。周辺の飲食店の営業時間も短くなっている。
		家電量販店(店長)	販売量の動き	・昨年の売上と比べて変わらない。
	乗用車販売店(経営者)	販売量の動き	・軽自動車の受注が極端に少なくなっている。大手自動車メーカーの燃費不正問題により購入時期を延ばしているようである。	
	乗用車販売店(役員)	販売量の動き	・熊本地震の影響でメーカーからの配車状況が悪化している。各販売店も同様だろうが計画販売台数に遅れが出ている。徐々に回復してくるだろうが、受注と販売でのジレンマ状態が続いている。	
	自動車備品販売店(役員)	単価の動き	・今年のゴールデンウィークは、大型連休のロングドライブで車を使用する頻度が高く、用品やメンテナンスの需要を期待していたが集客面では前年並みであったものの単価は減少している。客の声を聞くと、休みは多いが出費がかさむため、車にかかるお金は極力抑えたいと購入ランクを落とす客も多い。	

	その他専門店 〔酒〕（経営者）	来客数の動き	・今月は当地区の運動会などの催し物があり、さらに、気温上昇によりビール、清涼飲料水がよく売れた。その他の酒類は売れていないが帳尻を合わせると普通の状態。今後、この暑さが続けばビール類の売上が見込める。
	一般レストラン （店長）	来客数の動き	・連休明けの客の動きが悪い。
	一般レストラン （統括）	お客様の様子	・4月は北陸新幹線効果も弱くなり、来客数の落ち込みがみられた。しかし、ゴールデンウィーク期間の来客数は昨年同時期より良かった。昨年は観光客による来客数増加だったが、今年は地元客がやや増えたようである。
	観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・前年比で総売上が107%、宿泊人数99%、宿泊単価108%と、大型団体の宿泊があった昨年と比べて団体客数が1,000名減少したが、宿泊単価を高く設定できたため団体売上は前年並みを確保できた。14名以下の個人客は前年比で871名増加した。客室稼働率は85%であった。
	都市型ホテル （役員）	販売量の動き	・宿泊部門はインバウンド、ビジネス客およびコンベンション関係で堅調に推移している。レストラン部門は個人需要、法人需要の回復には至っていない。
	旅行代理店（所長）	販売量の動き	・売上数値が新幹線開業前の状態に戻っている。
	タクシー運転手	販売量の動き	・5月も朝のホテルの出発便が多く忙しい。
	通信会社（店舗統括）	来客数の動き	・来客数の減少傾向は収まった感じはあるが増加に転じているわけではない。
	その他レジャー施設（総支配人）	来客数の動き	・高齢者対応の依頼は今まで以上に入ってくるが、子供に関連する依頼もかなり増加している。
	住宅販売会社 （従業員）	販売量の動き	・受注の数字は、ここにきて伸び率を含め鈍化傾向にある。また、地区別の格差、バラツキが目立ってきたようである。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・再開祭りが完了しイベントも目白押しで人出も多く増えているが、購買に結び付いていない。商業者が悪いと都市計画の学者は責任回避のコメントをするが、客は見るだけの様子うかがえて、衝動買いなどの行動は全く期待できない。
	一般小売店〔精肉〕（店長）	単価の動き	・客は単価の安いものに流れている傾向がみられる。昨年の値上げの影響もあり、徐々に安いものに流れている様子である。
	一般小売店〔鮮魚〕（役員）	販売量の動き	・北陸新幹線開業から1年が経過し、昨年のにぎわいはやや鈍化している。しかし、観光客はゼロになったわけではなく、一昨年よりは増えているし街を歩く姿もよく見かける。但し、客層がやや変化しているようである。個人の買上単価がガクンと落ちた。
	一般小売店〔書籍〕（従業員）	販売量の動き	・売上は昨年実績を下回り、顧客の購買意欲も落ちている。
	百貨店（売場主任）	販売量の動き	・ゴールデンウィーク以降は販売点数および単価ともに低調に推移している。特に、薄手のジャケットの動きが鈍く、Tシャツなどの軽衣料中心の販売となっている。まとめ買いや衝動買いも減っており、厳しい状況が続いている。
	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・昨年と比較して今年の初夏は暑い日が多く、夏物のファッションアイテム購買の時期だが、買い方がシビアになっている。まとめ買いやコーディネートで買うことが少なく、1点を十分に吟味して買うということでは、まだまだ財布のひもが固い状態である。
	スーパー（総務担当）	来客数の動き	・来客数の減少が続いている。さらに1人当たりの買上点数も前年を下回り始めた。客は無駄なものは購入せず、家計を引き締めているようである。
	スーパー（店舗管理）	競争相手の様子	・競合店の新規出店に伴い他店との低価格販促が続いている中、来客数の確保ができなくなっている。
	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・客の購買に対する消極的な姿勢はまだ続いている。
	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・売上が前年を上回ることがなかなかできない。どこまで行ったら底を打つのか分からないほど厳しい。
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新車、中古車ともに成約に結び付かず、新規来客数も減少傾向にある。

	その他小売 〔ショッピング センター〕	販売量の動き	・特に日々消費する食料品価格にシビアになっている。ぜいたく、ご褒美をテーマにした商品も売れているが、客の意識は安い価格やポイント付与などに変わってきている。朝晩の肌寒さで、この時期の初夏衣料、住まいの品が例年を下回った。母の日はゴールデンウィークと間隔が近すぎてギフトや食料品が盛り上らなかった。
	その他小売 〔ショッピング センター〕（統 括）	来客数の動き	・買上率、客単価などをみると客の購買意欲自体は大きく変わっていないが、周辺の競合店の影響により来客数の減少がみられる。また昨年度自店で実施したりニューアルの反動も出ており、ホビー、シネマ以外の業種については影響が大きい。
	高級レストラン （スタッフ）	販売量の動き	・5月中旬から団体旅行シーズンに入り昼の集客は安定してきたが、夜の個人利用客数、法人利用客数が伸びないためトータルでは例年を下回っている。
	都市型ホテル （スタッフ）	販売量の動き	・昨年の北陸新幹線開業から2年目に入り、宿泊、宴会、レストランともに前年を下回っている。宿泊は5%程度の減少でとどまる見込みだが、宴会件数やレストラン来客数の減少は更に大きく、続いている。
	通信会社（役 員）	販売量の動き	・2～3月の商戦期が終了してから、引き続き客からの問い合わせや契約数が減少している。コラボレーションをしている携帯電話ショップへの来客数が国の指導の影響により減少していることも影響している。
	テーマパーク （役員）	来客数の動き	・北陸新幹線の開業後1年が経過する中で、国内の団体客、個人客も全体として前年を下回る数字となり、インバウンド客も、円高の影響もあって前年比でマイナスとなっている。
	競輪場（職員）	来客数の動き	・1日当たりの来客数、1人当たりの購入単価ともに3か月前よりも1割程度下がっている。
	悪く なっている	百貨店（営業担 当）	単価の動き
		スナック（経営 者）	来客数の動き
		通信会社（営業 担当）	販売量の動き
		住宅販売会社 （従業員）	販売量の動き
企業 動向 関連 （北陸）	良く なっている	-	-
	やや良く なっている	通信業（営業担 当）	それ以外
		不動産業（経営 者）	受注量や販売量 の動き
	変わらない	食料品製造業 （役員）	受注量や販売量 の動き
		繊維工業（経営 者）	受注量や販売量 の動き
		繊維工業（経営 者）	受注量や販売量 の動き
		司法書士	取引先の様子
	やや悪く なっている	一般機械器具製 造業（総務担 当）	受注量や販売量 の動き
		精密機械器具製 造業（役員）	取引先の様子
		建設業（経営 者）	受注量や販売量 の動き
		建設業（役員）	受注価格や販売 価格の動き
		輸送業（配車担 当）	取引先の様子

	金融業（融資担当）	受注価格や販売価格の動き	・金融政策の影響で、貸出金利の低下が止まらない。新規だけでなく、住宅ローンの金利見直しのたびに低下している。一方で、資金需要が強まっているかと言えばそうではない。営業努力だけでカバーできる状況ではない。また、保険や投資信託も運用機会の低下により新規購入が低調になっている。
	金融業（融資担当）	取引先の様子	・新幹線効果もなくなり、観光業界も通常に戻りつつある様子がみられる。飲食関係も同様の状況である。建設工事については目立った受注がない。
	税理士（所長）	取引先の様子	・取引先の様子では、地域的な特徴で土木建設関係は非常に低迷している。業界としては危機的な状況にあり災害対策が心配な側面もあるとの声が聞かれる。設備機械関係の輸出が好調である。医薬品関係や高齢者福祉関係は堅調である。賃金が上がらないので個人消費に厚みが出てこない。
	悪くなっている	-	-
雇用関連	良くなっている	-	-
(北陸)	やや良くなっている	職業安定所（職員）	求人数の動き ・4月の新規有効求人数が4,286人である。これは前年同月比4.3%増で、依然として有効求人伸びている。
	変わらない	人材派遣会社（役員）	求職者数の動き ・以前に比べて求職者の応募は少ない。マッチング率が低下している。
		人材派遣会社（社員）	求職者数の動き ・ここ最近ではサービス業の求人募集が多かったが、応募者数が少なくマッチング率は低かった。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き ・求人数があまり変わっていない。
		新聞社〔求人広告〕（役員）	求人数の動き ・5月の求人広告売上は前年同月比で8割程度である。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	雇用形態の様子 ・5月の求人広告は昨年同時期の6割、売上は5割強と、昨年を大きく下回った。昨年は一昨年より件数、売上が大幅に増えたが、一昨年の水準までいかない状況となっている。項目別にみると、パートアルバイトについては全体の比率で見た場合は変わらないが、正社員の比率が上がっている。一時的な大きな需要は完全に一段落した状況だが、正社員については継続的に募集があるとみられる。ここ数か月の数字で見てもこの傾向は続いており、求人広告の状況からすると大きな変化は起こっていない。
		職業安定所（職員）	それ以外 ・新規求人数、新規求職者数がともに減少する中、有効求人倍率は高止まりしている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き ・新規求人数は前年同月比でみると増加となったが、景気の動きではなく世代交代のための補充求人が多いため、変わらないとみられる。
		民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き ・パート要員の求人で応募者が少ない分に対して派遣依頼の注文が増えている。低賃金の求人が要因で、求人倍率が高くなる理由のひとつであると考えられる。
		学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き ・6月から就職採用選考の解禁ということで、昨年の8月開始と比べ求人の出が早まっており、昨年比で1割多く来ている。
	やや悪くなっている	-	-
	悪くなっている	-	-